彬子女王殿下 特別ご講義

人文科学研究科客員教授

ご講義はリモートで　ご講義に耳を傾ける学生

一昨年世田谷キャンパスでご講義をなさる彬子女王殿下

服の洋装化 受け継がれる皇室の伝統

本学人文科学研究科客員教授の彬子女王殿下による特別講義が昨年10月29日にオンラインで行われ、彬子女王殿下は、人文科学研究科および文学部の学生と教職員約80人に「和装から洋装へ～明治宮廷の選択」と題して約1時間、ご講義をなさった。

ご講義に先立ち佐藤圭一学長はあいさつで「皇室の装いの変遷を通して、近代化を目指した我が国の独自性を学ぶまたとない機会」と述べた。

その後、本学と彬子女王殿下のつながりについて、古代オリエントの学者であられた三笠宮崇仁親王殿下と本学イラク古代文化研究所との学術交流を始まりとし、2017年の国士舘創立100周年記念式典で彬子女王殿下のご台臨を仰ぎ、おことばをいただいたこと、18年には本学人文科学研究科客員教授にご就任されて皇后陛下や妃殿下方が相談して決定しているとされた上で、彬子女王殿下は「平成以降も洋装が格として上なのは変わらないが、和装も公の場で着られるようになり、時代に即した新しい皇室の姿が見て取れる。途絶えた伝統と復活した伝統が皇室に脈々と受け継がれている。次の世代に引き継いでいくのが私たちの使命」と締めくくられた。

質疑応答では、学生からの「洋装化された後の女性皇族の方々の古式和装への思いは」との質問に対し、彬子女王殿下は「一つのことを変えるのに多くの手順が必要な宮廷にあって、抵抗もある中で未来の女性のために洋装化を進めた昭憲皇太后の勇気と先見の明に、感謝の思いがある」とお答えになった。

当日は自宅での受講に加え、世田谷キャンパスに2会場を設置し、本学教職員のほか対面授業のためにキャンパスに入構していた学生が教室でご講義に耳を傾けた。

模擬裁判 リモート開廷

遠隔で夏から準備

模擬法廷室で行われた撮影の様子

昨年12月5日、本学法学会は第31回模擬裁判をオンラインで開催し、法学部1年生および教職員約400人が参加した。テーマは「この子のお父さんはどっち」。法律上の父と生物学上の父が異なる場合の親子関係不存在確認訴訟に脚色を加えて構成した。

まず再現ドラマで事案のあらましを紹介した後、人事訴訟の流れに沿って、口頭弁論や当事者尋問などの法廷シーンを配信。合間に争点の整理などの解説も入れ、最後には実行委員で導き出した判決が言い渡された。

終了後に、担当教員である五島京子教授は「親を法律上どう決めるのかを考える機会になればうれしい」と話した。加えて「オンラインだからこそできる模擬裁判をと相談を重ね、見事にやりきってくれた」と実行委員ら14人をねぎらった。

初のオンライン開催に向け、全学年から集まった実行委員は夏頃から遠隔でシナリオや裁判資料の準備を進め、11月には世田谷キャンパスで法廷シーンなどを撮影し配信。映像を完成させた。

模擬裁判は1968年以来、法律討論会と隔年で開催されている伝統行事。学生らが司法関係者や事案当事者を演じながら実際の裁判過程を通して法の実践を学ぶ。

磯谷ゼミ 千葉の獣害調査

3泊4日で野外実習

住民への聞き取り調査をする磯谷ゼミの学生

文学部史学地理学科地理・環境コースの3年生必修科目「地理学野外実習C」が昨年10月20日から23日にかけて3泊4日で実施され、学生59人がゼミごとに全国7カ所でフィールドワークに取り組んだ。

磯谷達宏ゼミは、動物の生態地理をテーマに学生4人が千葉県大多喜町周辺で調査を行った。「哺乳類の生態地理と獣害」をテーマにした学生班は、哺乳類のフィールドサイン（足跡や食痕、糞など）を探したり、住民に聞き取り調査をするなどし、この一帯にキョンやシカ、イノシシ、アナグマ、サルなどが生息していることを確認した。実習後には、町役場から提供された獣害に関するデータも参考にレポートを完成させた。

この実習は、3年生が卒業論文の作成に向けて自主的な研究の第一歩を踏み出すための基礎を修得することを目的としている。実習前には自身で決めたテーマに対しての文献研究や調査方法などの準備を、実習後にはデータ分析の方法やまとめ方などを学ぶ。

教室を飛び出して

駅に憩いの広場演出

いすはDIYで製作

西村研究室

理工学部まちづくり学系の西村亮彦研究室が昨年11月30日から12月6日にかけて、「出張DIY広場」を下北沢駅東口で実施した。

本企画は、まちの人の居場所づくりや地域交流の促進を目的にネットラジオ局「下北沢ラジオ0」と共同で実施され、「+αの溜まり場」をコンセプトにDIYで製作したいすとテーブル、ステージ、ハンモックなどを広場に設置した。形状や配置を自由に変えられる仕組みなど随所に工夫を凝らし、憩いの場として多くの人に利用された＝写真。

西村講師は「研究室のメンバーが一丸となって製作し、殺風景な駅前の景色を大きく変えることができた」と喜びを口にした。

西村研究室では、豊かな暮らしを支える公共空間のあり方について研究しており、今後は三軒茶屋駅周辺での企画も予定されている。

授業環境 着々整備

「ハイブリッド」も充実

21世紀アジア学部のハイブリッド授業の様子

昨年10月中旬から対面授業を拡充してきた本学は、およそ5割の授業で、遠隔と対面を併用する「ハイブリッド授業」を実施している。対面授業を安心して実施できるよう各種対策を講じ、令和3年度も見据えた整備を進めている。

◆教員間でノウハウ共有

ハイブリッド授業の開始により、教員は春期に実施したオンライン授業とは異なる授業準備に迫られた。そこで本学FD委員会は、授業実施事例集を全教員に動画で配信。授業形態ごとの機器の準備や実践例を示し、授業の質向上を促した。

◆令和3年度を見据え

設備整備

学内でオンライン授業を受講する学生のため、端末室に3キャンパス合わせて約40台のウェブカメラを新たに設置したほか、ハイブリッド授業のため貸出用ノートパソコンやウェブカメラ、マイクスピーカーを購入し、授業環境を整えた。

また、学生食堂の換気設備の改修工事を実施するなど、各施設の整備を進めている。

◆新入外国人留学生が来日

入学以来、日本入国が適わなかった23人の外国人留学生ら、政府のレジデンス・トラックを利用して1月より順次入国しており、本学はそのプロセスを外部旅行業者と連携し適切に対応している。

同13日に緊急事態宣言中の入国規制が強化されたことを受け、本学は入国日を変更するなどの対応に追われた。今後も政府の決定に従い対応していく。

課外活動 笑顔の再会

新型コロナウイルス感染状況によって活動内容や人数に制限を設けつつ、スポーツ協議会指定クラブ以外の課外活動クラブも活動を続けている。

昨年12月10日、チアダンス部エルブスは、1年生2人を含む6人が監督同伴のもと感染対策を講じて練習を行った＝写真。

練習に参加した1年生は「オンライン上で交流は深めていたが、直接会えず、対面での活動を心待ちにしていた。みんなと一緒に活動することができ、本当にうれしい」と笑顔を見せた。

持続可能な建材 特別賞

関西デザイン学生シンポ

昨年10月10日にオンラインで開催された関西デザイン学生シンポジウム2020で、理工学部建築学系位田（いんでん）達哉研究室の学生らで構成されるチームが発表を行い、特別賞を受賞した。受賞したのは近藤美月さん（3年）、武田夏音さん（3年）、宮野和花菜さん（3年）の3人。「持続可能なデザイン」というテーマに対し、火山灰の特性を利用した調湿効果のある内装建材を提案した。

関西デザイン学生シンポジウムは、時代を象徴するキーワードをテーマに学生が発表する公開プレゼンテーション型のシンポジウム。今回は新型コロナウイルスの感染防止のためオンラインで行われ、8団体から学生が発表した。

受賞した学生。左から、近藤さん、武田さん、宮野さん

留学生スピーチコンテスト実施

オンラインで開催

国際交流センターが主催する、本学の外国人留学生を対象とした第9回日本語スピーチコンテストがオンラインで開催され、スピーチ動画を含むコンテスト結果が、昨年11月3日から10日にかけて学内限定公開された。

「私の新しい日常」をテーマに、3学部2研究科から5人の留学生が参加した。留学生らは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う生活様式の変化で感じたことなどを中心に、エピソードを交えながらスピーチした。

教員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「オンラインとの共存」と題してスピーチした経営学研究科経営学専攻1年の万暁琴さんに決定した。万さんはオンライン上でのコミュニケーションの難しさとともに、コロナ禍で家族の絆の深さに気づいたと語った。

コンテストは例年、楓門祭の開催中に行われるが、本年度は楓門祭の中止を受けてオンラインでの開催となった。

学生相談室

悩む学生に寄り添っています

先が見えないコロナ禍では、感染症や学修に対する不安、孤独感などさまざまなストレスにさらされています。各キャンパスに設置されている学生相談室では、電話やリモート、状況に合わせて対面での相談にも応じ、学生の悩みに寄り添っています。

少しでも不調を感じたり不安やストレスを抱えたりした際には、一人で悩まずにお気軽にご相談ください。

学生相談室の受付方法やカウンセラーからのメッセージはこちら →

コロナ禍なお警戒

まさか?!のときは

学内において新型コロナウイルス感染者が発生した際には、保健所による行動確認に協力し、本学が指定する者には必要に応じて大学独自でPCR検査を実施することがあります。また、感染状況に応じ施設の消毒やキャンパス閉鎖などの拡散防止対応を行います。引き続き、感染予防の徹底をお願いいたします。

また、次のいずれかに該当する場合は、授業は公欠となります。必ず本学健康管理室に連絡し、指示に従ってください。

■感染の疑いがあるとき

新型コロナウイルスの症状などがある場合は、大学に入構せず近隣の医療機関を受診すること。

■感染した場合

保健所の指導に従い、療養する。治癒後は、指示された療養期間を経てから大学に入構する。その際、健康管理室に連絡すること。

【健康管理室】

世田谷キャンパス：03（5451）8115
町田キャンパス：042（736）2319
多摩キャンパス：042（339）7206

■濃厚接触者と認定された場合

大学に入構せず保健所の指導に従うこと。指定の健康観察期間を終了してから大学に入構する。その際、健康管理室に連絡すること。

交換留学 3年度は中止

本学は、令和3年度の交換留学について、コロナ禍での渡航制限や滞在中のリスクを考慮し、受け入れと派遣を共に中止とした。

交換留学に向けては、中止の可能性もあるとした上で募集を行い、面接を経て10地域の協定校へ27人の候補者が選出されていた。しかし、世界的なまん延に収束の兆しが見えず、渡航制限も依然として続いており、新型コロナウイルスに対する学生の安全を第一に考え、やむなく中止を決断した。

同様の理由で、春季休業期間に例年実施している海外研修（短期語学留学）も中止とした。

21世紀アジア学部海外研修も中止

海外研修を必修科目とする21世紀アジア学部でも、夏季に続き、春季休業期間に実施予定だった海外研修を中止とした。

1917年、「活学」を講ずる教育道場として、吉田松陰の精神を範とした私塾「国士館」が誕生しました。
以来、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」と「思索」を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の涵養を教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を輩出してきました。
創立100周年を迎えた国士舘は、これからも世のため、人のために尽くせる人材「国士」の養成を目指してまいります。

国士舘の建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を目指す。

国士舘の教育理念

「国士」養成のため、
四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を
兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと
「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をすること
「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと
「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

国士舘の教育指針

四徳目を備えるには、
不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること
「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること
「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること
「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること